

会議名	「日本食育学会 設立記念シンポジウム —記念講演とパネルディスカッション—」
開催日時	平成 18 年 11 月 17 日 (金) ; 13 : 00~16 : 50
開催場所	東京農業大学 百周年記念講堂 (東京都世田谷区桜ヶ丘 1 - 1 - 1)
主催者	日本食育学会
参加人数(概数)	約 1 千名 (会員、一般参加者、マスコミ関係者)
1. 会議の概要 (資料添付)	<p>食育は範囲が広く食べ物の生産から流通、加工、食の安全、栄養問題、疾病予防、食文化など生産者、消費者、教育界、食品関連企業まで多岐にわたる。日本食育学会は、食育に関する学際的研究と実践的な食育活動を提示し、食育推進の新たなステージを拓くことを目的として設立された (発起人挨拶)。畜産物の生産現場から加工・流通の場面において消費者、教育者やマスコミの意識構造については常に事前の情報収集に努め対策を講ずる必要があり、このような視点から下記により開催された標記のシンポジウムに出席して収集した食育学会が目指す方向についての情報から、今後の畜産技術の研究開発の場に関係すると思われる情報を報告する。</p> <p>第 1 部</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発起人一同による設立の挨拶 発起人の紹介</li> <li>・日本食育学会設立に期待する ; 大澤 貢寿 (東京農業大学長)</li> <li>・発起人からのメッセージ ; 「いま、なぜ食育なのか」 坂本 元子 (和洋女子大学副学長)</li> </ul> <p>食育の歴史は古く、昭和 58 年に日本型食生活が提唱されてから食育基本法に至るまでの経緯を紹介。3 省主導で進められてきたが、実行・認知度は低い。食育推進活動の一環としての食育学会。</p> <p>第 2 部</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・記念講演 ; 「食がもたらす将来の日本像」 小泉 武夫 (東京農業大学教授)</li> </ul> <p>民族文化論、食育は精神論、江戸の食育、日本人は肉を食べない民族、沖縄の食の乱れ、これから起こること、食育は家庭から。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・記念シンポジウム ; 「食育の原点～味覚を育てる～」 コーディネーター : 中村 靖彦 (発起人代表) パネリスト : 勝野 美江 (農水省消費者情報官)・服部 幸應 (服部学園理事長)・藤吉 久美子 (女優)・結城 登美雄 (民俗研究家)</li> </ul> <p>(論点) 気になっていること、アメリカ食生活の問題点、食育の進め方と取り組み方、次の世代に伝えたいこと、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これからの日本食育学会のあり様について : 中村 靖彦 (発起人代表)</li> </ul> <p>生産者から消費者までのフードチェーンの構築を目的として、学会誌による情報の開示と交流、大会、分野ごとの分科会、行政や一般社会への情報発信、個人</p>

	や団体の表彰、日本の食へのアピール、平成 19 年 5 月に和洋女子大で第 1 回の大会と総会を開催する予定。
2. 今後の研究開発分野として重要と思われる課題	子どもを育てる母親に対する食育に関する課題。
3. その他の発表課題で関心のあったもの	記念講演 ; 「なぜいまさら食育なのか?、従来の活動では効果がない」。
4. 今後研究開発課題採択に当たって参考とすべき事項等	食育学会が発足して食育についての発表の場ができた。これを受けた学際的研究に注目すべきである。また、これまでの学会発表等の活動はい。そのために、家政学、生活科学分野などの研究者からの課題を誘引、注目する必要がある。
5. 会議の所感	この記念シンポジウムを NHK テレビが収録、12 月 16 日 BS “土曜ホーラム”で放映予定とのこと。 現在の我が国においてマスコミや消費者に対する TV 放映の影響力は大きいとみなされ、他の学会においても今後の学会活動の方法論として見習うべきであろう。
報告者	針生 程吉